

平成29年度第4回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「ラムサール条約登録二周年 涸沼の植物を学ぼう」を実施しました。

開催日時：平成29年6月24日（土）午前9時00分から午後3時50分まで

開催場所：東茨城郡茨城町中石崎 涸沼自然公園

参加者：33名

今回の自然観察会は、ラムサール条約登録二周年を迎えた涸沼湖岸に近い涸沼自然公園で植物観察を行いました。講師は植物の自然観察会ではいつもお世話になっている福田良市先生にお願いしました。今回も植物観察の初心者からベテランまで、多くの参加者が満足する充実した解説をしていただきました。

まず午前中は公園内を流れる若宮川の周辺の湿地を観察しました。ヨシやマコモ、ガマなどの定番の湿生植物や湿地を好む樹木などを観察していきました。ヒメガマとガマとの相違点はヒメガマの雄花と雌花は離れてつくことですが、花期ではないときに見分ける方法としては、葉の幅が1cm以上あればガマということでした。湿地の植物を観察したあとは台地の上へ登り、アジサイの花が見ごろを迎えつつある「あじさいの谷」を見ながら進みました。普通にイメージする紫のアジサイもきれいでしたが、葉がカシワの葉に似ていて白い花を咲かせるカシワバアジサイも印象に残りました。

台地の上の広場についたところで昼食休憩を取りました。涸沼からの風が気持ちよく、最高のロケーションで昼食をとることができました。

午後は台地の上の落葉樹を中心とした里山的な林を観察しました。クヌギの葉とクリの葉はよく似ていますが、葉の先端のとげが茶色いのがクヌギの葉、緑色なのがクリの葉だと福田先生から教えていただきました。また葉が大きく殺菌作用があるため朴葉寿司や朴葉焼きに使われるホオノキは若い実を付けていました。またナツツタのつるに吸盤状の形をした部分があり、それによって木に固定している様子をルーペで確認したり、ヤマグワの実を食べたり、エゴノキの実を臼ですりつぶしてお父さんに怒られたという参加者の方の昔話を聞いたりして、時間を忘れるほど楽しみながら観察することができました。途中、涸沼を望む絶景ポイントがあり、風を受けたウインドサーフィンがかなりのスピードで疾走しているのを遠くからでも確認できました。また林のなかにはベンケイガニのなかまの陸ガニも見られ、台地の上のかなり水辺から離れているところで遭遇したカニにみなさん驚いていました。この季節は花をつけるものが少ないとのことですが、そのような季節にきれいな花を咲かせてくれるアジサイの花やホタルブクロの清楚な花も印象に残りました。

福田先生には9月30日実施の自然観察会（桜川源流域での植物観察）と11月実施予定（霞ヶ浦自然再生地区植物の観察会）でも講師をお願いすることになっています。参加者のみなさまのおかげで充実した観察会を行うことができました。参加者のみなさん、福田先生、そしてパートナーの皆さん、ありがとうございました。

観察した植物はおよそ140種類でした。

環境活動推進課 福井正人

観察会の様子と観察した植物の一部を御紹介します。



まずは若宮川の周辺から観察を始めました。



ヒメガマです。



湿地の植物が広がります。



コヒルガオ



福田先生



カシワバアジサイの間を歩きます。



色とりどりのアジサイ。



カニ！



ホオノキ



ホタルブクロ



漕沼を望む。